



新十三橋 来年九月ごろ完成

十三湖に架かる永久橋の架け替え工事は、急ピッチに進められています。
すでに七割ていど完成していますが、全面完成は来年九月ごろの予定です。

新しい橋は延長二百二十四メートル、全幅十一・五メートル、車道二車線で幅六・五メートル、歩道は左右それぞれ二・五メートル幅でこれまでの木橋とくらべ、橋の機能がグンと向上します。

昭和53年 12月号

交通安全 みんなですすめよう 交通安全

絶対をやめよう酒飲み運転

年末の交通安全運動

年末の交通安全運動は、十二月十六日から十二月二十五日までの十日間実施されていますが、運動の重点は、①歩行者、特に子どもと老人の安全確保、②暴走、飲酒運転の追放、③踏切の事故防止、④シートベルトの着用励行となつて

正しい交通ルールを守り交通事故から自分を守ることを徹底しなければなりません。

今年度の交通安全対策は、「暴走・飲酒運転をなくしよう」をスローガンにかかげ、昨年

の死者一三八名のハイペースと減少を目標に諸対策を推進してきましたが、五月以降交通死亡事故が異常な発生をみせ、これに歯止めをかけるべく、六月一日には県警察本部

長名による「交通死亡事故抑止非常事態宣言」一稿にて七月一日には県知事名による「交通事故防止非常事態宣言」が相ついで発せられ、県民総がみでの運動を展開してきましたが、十一月十七日、つい

に交通事故死者数は一三八名となり昨年中の死者と同数になりました。

十二月十日現在の交通事故は、発生件数五八八二件、死者、一五三人、傷者、七、二五五人となつております。

これら死亡事故の原因をみますと依然として二十四歳以下の若年ドライバーによる暴走・飲酒運転によるものが大半を占めており、運転者の基本的マナーの欠除が強く指摘されています。

この冬の犠牲者が増加

交通弱者である「子どもと老人」の犠牲者は、老人がわずかながら減少しているものの、子ども事故が増えています。被害者の事故内容をみると、道路へのと出し、車の直前直後の横断、幼児のひとり歩き等、初歩的ルール違反や保護者の不注意等です。

交通事故は、これら年末年始にかけて特に増える傾向にあり、「ゆつくり走ろう運動の定着化」、「飲酒運転の根絶」をそれぞれの立場で自覚し実行したものです。



交通事故防止に今日も街頭に立つ……

交通弱者である「子どもと老人」の犠牲者は、老人がわずかながら減少しているものの、子ども事故が増えています。被害者の事故内容をみると、道路へのと出し、車の直前直後の横断、幼児のひとり歩き等、初歩的ルール違反や保護者の不注意等です。

交通事故は、これら年末年始にかけて特に増える傾向にあり、「ゆつくり走ろう運動の定着化」、「飲酒運転の根絶」をそれぞれの立場で自覚し実行したものです。

交通事故は、これら年末年始にかけて特に増える傾向にあり、「ゆつくり走ろう運動の定着化」、「飲酒運転の根絶」をそれぞれの立場で自覚し実行したものです。

交通事故は、これら年末年始にかけて特に増える傾向にあり、「ゆつくり走ろう運動の定着化」、「飲酒運転の根絶」をそれぞれの立場で自覚し実行したものです。

除雪作業にご協力ください



みなさんの協力でスムーズに行われる除雪作業 (53年1月)

路上駐車はやめる

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪作業は、交通量の少ない早朝に行われますので路上駐車は絶対しないよううしてください。

除雪車に近寄らない

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

「右側走行」除雪も

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

故障車には目印を

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

路上駐車はやめる

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

「右側走行」除雪も

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

故障車には目印を

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

路上駐車はやめる

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

「右側走行」除雪も

いまだどこころ降雪量は少なく、しのぎやすい冬を過ぎるような気がしますが、いつ、大雪になるか予想がつきません。

そこで、村でも除雪対策を立てていますが、除雪はなんとしてでも村民の協力によって除雪機をフルに發揮した作業ができます。

除雪車は重機械のため前方でも十メートル以内に入ると死角になります。作業中は

故障車には目印を

六十五人が めでたく成人に

式典は基幹集落センターで

成人式は一月十五日午前十時から、相内の基幹集落センターで行います。
 該当者は、昭和三十三年四月二日から昭和三十四年四月一日までに生れたかたです。

教育員会では近く、個人 素にしてみんなが楽しく参加
 ごとに案内を出すことにして できるようにしてください。
 入式へ出るため多額の出 費をしないようにしたいもの
 でお、服装はできるだけ簡 です。



服装は簡素に一のかけ声もよそにごとに派手になるばかりです。(53年の成人式から)

成人者名簿
 (カッコ内世帯主)
 ■相内 桂川・太田

- 鎌田 和廣(太廣)
- 武田 京子(英光)
- 平野 勝彦(武義)
- 佐々木 桐子(孫雄)
- 三浦 満仁(孫好)
- 今 一彦(初栄)
- 三和 勉(悦郎)
- 三浦ふじ子(金五郎)
- 伊藤 幸治(博)
- 三浦 好子(直吉)
- 米谷 育子(由一)
- 岩間千賀子(定四郎)
- 三和 広子(克一)
- 唐川 栄子(佐一郎)
- 秋田谷重春(重藏)
- 秋田谷 浩(久助)
- 奈良 勇一(仁三郎)
- 木村 寅(清左衛門)
- 武田 友子(長吉)
- 奈良 徳子(元次郎)
- 長利 清仁(清太郎)
- 秋田谷光徳(本一)
- 木村ひとみ(昭一)
- 木村 忠光(恒美)
- 佐々木 淳子(正)
- 小田桐美子(藏)
- 鹽元・磯松
- 葛西 洋美(敬太郎)
- 葛西 達也(定雄)
- 山田 卓美(伝)
- 坂井 範子(精)
- 石岡由喜子(強一)
- 工藤 東子(誠一郎)
- 葛西 博美(幸子)
- 竹谷浩太郎(嘉太郎)
- 石岡つき子(六太郎)
- 山田 隆一(勝由)
- 松橋 淨嗣(徳夫)
- 藤田 靖(弥男造)
- 葛西美保子(信一)
- 後藤富士子(清典)
- 藤田留美子(勝一)
- 伊南 幸彦(幸男)
- 太田富士子(昭美)
- 山田美穂子(嘉志雄)
- 大川 三代(円太郎)
- 伊南 文子(義道)
- 和嶋 克彦(松藏)
- 十三
- 若山専太郎(恭次)
- 小山内純子(利一)
- 亀田 哲子(勇)
- 小倉 重雄(鉄弘)
- 工藤留美子(嘉四藏)
- 渋谷 啓子(博)
- 有馬 眞良(一)
- 相川 朱美(留一)
- 大関千賀子(正雄)
- 本荘 清則(鉄雄)
- 白川 幸徳(孝雄)
- 梶浦 哲男(清)
- 成田 勝雄(勝由)
- 新岡 正治(清)
- 浜田 隆樹(春士)
- 松橋 誠(秀四雄)
- 相坂 恒夫(永太郎)
- 奈良富士子(典昭)

米の消費を増やそう

70人が参加、料理講習会



米を材料にして作った料理を試食する主婦たち

金木地区農業改良普及所で「お米を見直そう」と、先月三十日、基幹集落センターで米を材料にした料理講習会を開き集まった主婦たちに米の消費拡大を訴えました。

この講習会は近年、どこの家庭でもパン食が増え、米の消費が香んばしくないため、開いたものですが、この日は村内の主婦七十人が集まり、金木地区農業改良普及所の加藤昭良氏、長谷川ゆり子両生活改良普及員を講師に、豚肉とヒジキの炊き込みご飯、おいしいうおにぎりの作り方をはじめ、漁業専攻二百海里問題に対処して早く手に入るサバとイワシの料理を作りましたが、サバと大根を煮込んだ「船場汁」は初めて食べたという人もいて好評でした。

また、食事のアクセントとして欠かせない漬物の作り方も習得しましたが、すぐ食べられる漬物とあつて関心を集めました。

料理が出来あがつたあと、全員で試食会を開き、感想や意見の交換が行われ、終始なごやかに講習会を終りました。

講師の加藤普及員は「白米はビタミンB1が少ないのでこれを補足できるように材料を組み合せれば、結構おいしい料理ができます。また、形を変えることによって数十種類の料理ができ、子どものおやつにもなる」といつており、米の見直しを呼びかけています。

津軽の先住民族



大倉岳の石垣 大倉岳の東側 500メートル、西側 1,500メートルにおたつて石垣があります。長いことたむろしていた津保化族が築いたのではないかとみられています。



▶12◀

阿曾部、津保化族の闘争 ②

豊島勝蔵

苦難の阿曾部

阿曾部一族の苦難に満ちた世代は、幾代も幾代も続きました。臥薪嘗膽―薪の上で臥し、にが胆をなめ、仇を報いるために眼難、辛苦する意―という言葉があります。阿曾部一族は言語に絶するような奴隷と

しての辛苦の生活を続けて来ました。そして、一族の中から偉大なる勇者が出現して、津保化族に復讐する狼火を挙げられることを望みながら、つらい重労働に従い屈辱の生活に耐えしのんで来ました。一方勝者である津保化族は、津軽をわがもの顔にばっこししました。阿曾部一族の棲息して

いた場所は、どこもりつばな道路が切り開かれ、生活の糧の豊富な場所ばかりでした。海辺に近いところはほとんど津保化一族の棲息の地となり、阿曾部族の老幼男女は津軽の深山に追いやられたり、南方の地に押しこめられたりしてしまいました。

勇者加無礼現る

臥薪嘗膽の芽がみくらみ、花が開き、実を結ぶ世代がやつて来ました。阿曾部一

族十五代の族長に加無礼という勇者が現われました。彼は、津保化一族に虐待され続け、来た父母とでも成長あらゆる苦しみの中で成長しました。そして、阿曾部の族長の血を受け継いだ正統であること、聞かされて育ちました。いつかきつと津保化一族の手から津軽の豊土を回しなければならぬと決意して育ちました。

加無礼は、津保化一族の武器である弓矢の術を修得して山野の獲物をあさり、一族の若者たちにも訓練を積ませることを忘れませんでした。津保化一族の族長は、十二代の阿左津貴という人無礼のそれとはまったく正反対で、生まれながらにして津軽に君臨した津保化族の族長となるべき運命になりました。しかし、難よ花よと育てられたわけではなく、将来族長となるべき筈に準じた訓練を強要されて生育したわけでは、けれど、臥薪嘗膽の加無礼、悉皆太平の阿左津貴とでは、心の持ち方―根性がちがって

ていました。

再び両族の闘い

再び両族の闘いが始まりました。加無礼が復讐のために旗を上げたのです。阿閉羅山から起ち上がりました。合戦の場は、いつも巖東山麓でした。加無礼の軍は連戦連勝を続け、意気軒昂でした。かつて津保化族の労使となつて重労働に服していた阿曾部族も立ち上がりました。津保化一族は根拠地である中山山脈の蘆花山や西浜の南方に退却しました。そして、和議を申し込みました。南平賀川を境として東西に国域を定めること、阿曾部族を奴隷化しないこと、互いに国域を侵さないこと、協が条件であつたらしいです。和議が成立しましたが、その後も両族間には三代ぐらゐり典土戦がくり返されたやうです。

阿曾部が盛は再び阿曾部族の棲息の場所となり、加無礼と阿左津貴の闘争を第二次の大きな戦いということが出来るでしょう。縄文後期も終わろうとしていました。

村の史跡メモ

於瀬洞(おせどう)

於瀬洞(おせどう)は古代安日彦、長髄彦の遺骸を再葬した墓地といわれ、長髄神社を建てて福島城の精神として崇拝されてきました。

建久二年(一一九二)安倍倍神社として再建しましたが、応永二十三年(一四一六)福島城とともに焼失、延徳二年(一四九〇)天眞名井宮が御幸して、住古安倍一族をしのび、御世堂として一字を建立しました。その後、元文三年(一一七三)藩の社寺令によつて御伊勢宮と改称され、弘化二年(一八四二)に神明宮と改められました。大正十年ごろ県道の切り下げ工事で貝塚が出土し、土器、石器が数多く発掘されたのに続き、同十三年には人骨も発見されました。また、昭和四十六年九月十八日、県道拡張工事中に斜面から縄文前期の土器が出土しました。高さ十以上の土壇が平坦になつていますが、森全体が遺跡として保護されています。

連載

★村民ひろば★

戸籍の窓



お誕生

工藤 邦博(十三) 弘文
斎藤 史朗(磯松) 一義
白川 恵(十三) 兼夫
秋田谷智美(相内) 等



ご結婚

(森内 一春(青 森)
成田富士子(脇 元)
藤山 明人(脇 元)
藤元 昭子(車 力)
青山 純久(太 田)
野上 敦子(青 森)
小倉 幸匡(十 三)
駄黒 絹代(鹿兒島)
高屋 裕好(十和田)
小寺 初子(脇 元)
斎藤 文彦(脇 元)
中川 規子(東 京)
井沢 孝(弘 前)
工藤りつ子(太 田)

おくやみ

斎藤 長作(脇元) 76歳
三和 孫市(脇元) 68歳

永久橋完成を待ち望む

松 江 陽 子
十三・公務員



十三橋をバイク通勤して10年……

この間、何度となく通行止めにあい遠く津軽大橋を迂回したものです。

狭いあゆみ板を渡って転落しそうになったり、雨の日のスリップ事故など数えあげればきりがなほほど危険な思いをしました。

尊い命の犠牲者も数人。橋を利用する者の1人として1日も早く安全な橋が架けられたら一と願ったものです。

昭和30年に市浦村が誕生した。

その発展よりは目覚ましいものがありました。十三はこの危険な木橋一つで隔絶感があるように思えてなりませんでした。

その念願の橋も来秋迄には完成との事。この永久橋完成をもって文字通り市浦村が一体となり、より以上の発展が期待できそうな気がします。

十三小の児童は写生大会があると橋を描きます。まだ工事中の未完成の橋を。

でも、来年こそは立派に完成された素晴らしい橋が描かれるだろうーとその日を待ち望むところです。

故里の美しさを後世に

奈 良 幸 雄
太田・公務員



「津軽で岩木山の見えないのは太田だけだ」とよく人に笑われる。このことは太田は山奥で展望がきかないし、交通の便も悪いことに起因していると思う、

昨年秋、太田地区多年の念願であったバスの乗り入れが実現し交通の不便は解消されたが、岩木山が見えないことは何ともいたし方がない。それでも私は自分の生れた故里にはすてがたい愛着もっている。

展望のよしあし、交通の便不便に関係なく人はだれでも自分の故里は忘れられないものと思う。市浦村は風光明媚にしていたところ雄大な景観に恵れている。津軽文化発祥の地としての歴史もまた古い。

いつぞらに開発をすすめることなく、この美しい故里の自然を大事にし後世に残したいものである。



金メダル獲得の報告にみえた
奈良良光選手と青山又一副団長

第十四回全国身体障害者スポーツ大会(やまびこ大会)は、十月二十八日と二十九日の両日にわたり、長野県松本市登陸上競技場で行われました。この大会で努力賞の金メダルを獲得した奈良良光選手と青山又一副団長(西北身障者福祉連合会長)が、その報告にみえました。奈良選手は、百斤競争とやり投げ競技に出場し、ともに四位入賞を果たし、特別努力賞として金メダルを獲得しました。奈良さんは、県大会においても、百斤競争で金メダル、走りや跳びでも銀メダルを獲得し、全国大会に輝くのをあせて毎日自主トレーニングを重ねてきたもので、全国大会で二種目とも四位入賞したことは、関係者からも喜びの賛辞を得ています。奈良さんは、幼少のころ病気のため聴力を失いましたがスポーツは万能で、陸上競技のほか、野球、バレーボール等なんでもこなし、地域のスポーツ振興にも寄与しています。

やまびこ大会で
奈良良光さん(相内)が
金メダル獲得



■年末年始の役場の執務

今年も残すところあと数日、年の瀬はなにかとあわただしいもの、印鑑証明や戸籍簿・抄本の請求や納税する人などで役場を訪れる人が増えます。ご用の方は早目においでください。役場は二十八日が「ご用納め」で午前中です。新年は一月四日が「ご用はじめ」です。役場は二日からになります。五日からになります。

■麻しん(はしび)の予防接種

麻しんの予防接種は、生後十八〜三十六か月の間に接種することが望ましいとされていますが、五十三年十月より定期の個別接種を行うことになりました。麻しんの予防接種は、問診

・子診・内診と多少時間がかりますので指定された期日に行ってください。

料金は無料です。

■接種対象者

昭和五十一年一月一日生れから同年十二月三十一日生れまでの幼児を対象としますが、小学校教育前までは、はしがにかかったことのない子どもを対象とします。申し出てくだされい。

■接視日時と場所

とき	ところ	じかん	対象地区
1月9日	市浦診療所	9:30	十三
1月11日		11:00	
1月17日	。	13:30	協元・磯松
1月19日		15:00	
1月23日	。	14:30	那内・太郎・朝日
1月25日		15:30	

■股脱検診

とき 五十四年一月十七日
ところ 基幹集落センター
対象 五十二年九月一日生れから五十二年十一月三十日生れ

十一月から四月まで
ごみの収集日は毎週
木曜日だけです。

（にん）ち（は）ち（やん）



山田藤吉さん長男 藤元 義博ちゃん
(生後十カ月)
ハッピースタイル似合
うでしょ。ぼくにおね
えちゃんや二人いるの。
大変にぎやかで毎日が
お祭りみたい。

善意ありがとう

市浦村商工会青年部(鳴海 繁正部長)では、恵まれない人たちのために役立ててくださるため、三万円を村へ寄託しました。

このお金は、同青年部が村内の電話番号簿を作成して販売した益金の一部です。村では、社会福祉協議会の「たすけあい資金」として、福祉向上に役立てることにしています。

私の学級

「先生、お勉強ばかりがお勉強じゃないでしょう。遊ぶこともお勉強なんですよ。」
「私が意を得たりとばかり、そうだよ。」
「どうして」という私の問いに、「体をきたえる勉強だよ。」
「勉強ばかりしているよ、あきて勉強が嫌になるよ。」ある日の給食時間の一コマです。
こんな会話に伺えるように、我が学級三十八人(男二十一、女十七)の子供達は、遊ぶことが何よりも好きで、底抜けに明るいので、

伸びる子



相内小学校1年 担任 三国 幸子

狭しと走り回る毎日である。教室は、子供達とつって新しい経験の場、子供らしい自由な発想は、すぐさま行動に移されるのです。
椅子に鉛筆で落書きをして、「消しゴムで消して、元通りになるまでは座ってはいけません」と私が言われ、何となく授業時間まで、椅子をひっくり返し、裏までゴシゴシ消していたA君。けんが疲れでぐったりしたB君、つむつた目に涙の顔を残し、眼のごと一時間、かわいげなく顔をこぼして、一時間、かわいげなく勉強を続けました。「白いね」というお話を作りみんなに感動を与えてくれたC子さん。
その後、続けと頑張ったD君、一生懸命作ったお話は、「力太郎」そばにいた子に「そのお話、知っているよ」と言われ、がっかりした顔。なわとびが唯一の楽しみなE子さん。
広い天地を求め、お勉強のこととは忘れてしまいました。給食時間、カレー汁をじつと見つめていたG君「先生、これ甘口、辛口」には思わず吹き出し笑。
こんな中で、すくすく伸びる一年生の子供達。これからも明るく元気に伸びてほしいなと思うのです。